

ジュラシック・トーク

ゲーテとディズニーにおける「魔法使いの弟子」の諸相

今回の定期で演奏されるデュカスの「魔法使いの弟子」のサブタイトルは「ゲーテのバラードによるスケルツォ」。ドイツの詩人ゲーテが作った定型詩の仏訳を元に、デュカスが作曲したものです。そのオリジナルのドイツ語のテキストの全文と日本語訳を2ページ先に掲載しました。確かにデュカスはここに登場する「水」、「箒」、「弟子」、そして「呪文」といったモチーフを曲の「テーマ（ライトモチーフ）」にしていますね。一方で、この曲はディズニーの長編アニメ「ファンタジア」の代表的なナンバーとしても有名です。もしかしたら、このミッキー・マウスが登場するアニメによって、初めてこの曲を知った人も多いのではないのでしょうか。そのプロットは、こういうものでしたね。



①魔法使いの家では、ご主人が魔法の研究に余念がありません

②弟子の仕事はといえば、もっぱら水汲み。

③ご主人は、研究にも飽きて一休み。

④その間に、弟子はご主人の帽子をこっそりかぶり、魔法の練習です。

⑤箒を下男の姿に変え、水汲みの仕事をやらせようとします。

⑥箒はとっても働き者。弟子はすっかり浮かれていい気持ち。

⑦いつしかウトウトして見る夢は、宇宙をも支配できる大魔法使いになること。

⑧と、いつの間にか箒が運んできた水で、部屋の中は水浸し。



⑨箒に水汲みを。止めさせなければ、弟子はまさかりを持ってきて、

⑩箒を粉々に打ち砕きます。これでもう水は増えないでしょう。

⑪ところが、その箒の破片は、それぞれが新しい下男に変身しましたよ。

⑫水は前にも増して増えるばかり。

⑬いまさら魔法のマニュアルを見ても、箒を元に戻す方法は見つかりません。

⑭家じゅうが水であふれたころ、ご主人は目をさました。

⑮ご主人の呪文で、水はすっかりなくなり、箒も元の形に戻ります。

⑯弟子はその箒でお尻をぶたれ、折檻です。まだまだ修行が足りません。

ですから、このディズニーのバージョンは、必ずしもゲーテのプロットに忠実に作られているわけではないのです。まず、オープニングで「魔法使い」が登場すると、「③」のようなあくびをしていますから、たぶん昼寝でもしに行くのでしょうか。しかし、ゲーテのオリジナルでは彼はもうすでにどこかに出かけているのですから、そんなシーンはありません。しかも、この時に流れているのが、こんなフルートのソロです。



いかにも、眠気を誘うようなメロディ、まさに「あくび」の描写ですね。

もちろん、デュカスがこの曲を作った時には、そんなことは想定していたはずもなく、単に「箒のテーマ」の後半として提示していただけたことなのでしょう。つまり、この「序奏」の部分は「水のテーマ」をバックにして「箒のテーマ」の前半と後半を提示し、その間に「弟子のテーマ」が挟まるという構造になっているのです。ゲーテによれば、「弟子」が「魔法」をかける対象は「水」と「箒」の二者だということが、この序奏の中で描かれているのですよ。

ですから、ディズニーがこの部分の音楽で「あくび」を感じたのは、作曲家にしてみれば見当違いも甚だしいことだったに違いありません。しかし、まあ、音楽による物事の描写なんて、そんなものですよ。いくら作曲家がそのつもりで作っても、それが伝わらないことの方が多いのではないのでしょうかね。実際、ディズニーの「あくび」は、とてもこの音楽にはマッチしていますからね。

もう一つの相違点は、オリジナルでは「箒」は斧で「2つ」に砕かれるだけなんです。決してディズニーのように粉々にされて、それぞれがまた全部再生されるという(⑩)大げさなものではないのですよ。

でも、ここはやはりこのぐらいの「箒」(⑪)が出てこないことには、インパクトは半減しますよね。

ただ、あのアニメの中で演奏されていた曲には、指揮者のストコフスキーによって大幅に手が加えられています。まず22小節から2小節新たに挿入されていて、その前のホルンのフレーズ(上の楽譜と同じもの)のエコーのようなものが演奏されています。しかし、彼がこのような新しい素材を加えたのはこの部分だけ、それ以後は、ひたすら小節をカットしていく作業が続きます。それは、

123小節目から3小節 / 132小節目から3小節 / 141小節目から6小節 / 177小節目から11小節 / 228小節目から12小節
285小節目から9小節 / 304小節目から3小節 / 313小節目から3小節 / 321小節目から3小節 / 360小節目から3小節
378小節目から6小節 / 396小節目から3小節 / 450小節目から3小節 / 729小節目から6小節 / 816小節目から3小節
825小節目から6小節 / 873小節目から6小節 / 909小節目から6小節 / 933小節目から2小節

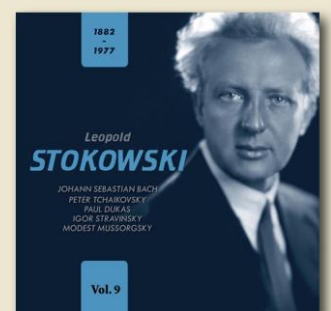
という19カ所、合計97小節です。差引95小節、原曲より少なくなっていました。オリジナルは940小節ありますから、その1割以上が少なくなっているということですね。

どうやら、ストコフスキーの仕事はこれだけだったようです。オーケストレーションなどは1カ所ピッコロが楽譜と違う音を出しているところを確認できましたが、それ以外はまず原曲に忠実に演奏しているようです。

いや、アニメでは動きに合わせてやたらとシンバルが追加されていますが、それはSEとみなすべきでしょう。

もちろん、カットした場所を含めて、全て耳で聴いただけでの判断ですから、本当は違っているかもしれませんが、その辺はおおらかに。

ただ、ちょっと気になるのは、このアニメのためのフィラデルフィア管弦楽団との録音は1937年の12月から始まるのですが、その直前の1937年の11月に同じオーケストラで録音したものでは、こんなカット(と追加)は一切行っていないのですよ。つまり、ストコフスキーは、ここではオリジナルをそのまま演奏しているのです。ですから、彼がこんなチマチマとしたカット作業を行ったのは、コストを下げるためにアニメの尺をひたすら縮めるためだったのではないのでしょうか。



Hat der alte Hexenmeister
Sich doch einmal weggeben!
Und nun sollen seine Geister
Auch nach meinem Willen leben.
Seine Wort' und Werke
Merkt ich und den Brauch,
Und mit Geistesstärke
Tu' ich Wunder auch.

Walle! Walle/Manche Strecke,
Daß, zum Zwecke,/Wasser fließe,
Und mit reichem, vollem Schwallen
Zu dem Bade sich ergieße.

Und nun komm, du alter Besen!
Nimm die schlechten Lumpenhüllen!
Bist schon lange Knecht gewesen;
Nun erfülle meinen Willen!
Auf zwei Beinen stehe,
Oben sei ein Kopf!
Eile nun und gehe
Mit dem Wassertopf!

Walle! Walle/Manche Strecke,
Daß, zum Zwecke,/Wasser fließe
Und mit reichem, vollem Schwallen
Zu dem Bade sich ergieße.

Seht, er läuft zum Ufer nieder;
Wahrlich! ist schon an dem Flusse,
Und mit Blitzesschnelle wieder
Ist er hier mit raschem Gusse.
Schon zum zweiten Male!
Wie das Becken schwillt!
Wie sich jede Schale
Voll mit Wasser füllt!

Stehe! stehe!/Denn wir haben
Deiner Gaben/Vollgemessen!
Ach, ich merk es! Wehe! wehe!
Hab ich doch das Wort vergessen!

Ach, das Wort, worauf am Ende
Er das wird, was er gewesen.
Ach, er läuft und bringt behende!
Wärst du doch der alte Besen!
Immer neue Güsse
Bringt er schnell herein,
Ach! und hundert Flüsse
Stürzen auf mich ein.

Nein, nicht länger
Kann ich's lassen;
Will ihn fassen.
Das ist Tücke!
Ach! nun wird mir immer bänger!
Welche Miene! welche Blicke!

お年を召した魔法使いのお師匠様は
今日はどこかへお出かけ!
だから今は先生の霊たちは
おれの命令に従わないといけないのさ
お師匠様の呪文やしぐさ
そしてその使い方はチェック済み
おれの精神力で
お前たちをびっくりさせてやる

溢れる溢れる/大きく波打て
目印のところまで/水よ溢れる
たっぷりの湧水で
泉になるまで注ぎ込め

さあ今度はお前だ 古びた箒よ!
その汚いレンペンのようなぼろ布を着ろ!
おまえには下男あたりがちょうどいい
さあおれの命令を果たせ
2本の足で立ち上られ
頭を高く持ち上げろ!
急いであそこまで行ってこい
水瓶を持っていくのだぞ!

溢れる溢れる/大きく波打て
目印のところまで/水よ溢れる
たっぷりの湧水で
泉になるまで注ぎ込め

見ろ やつは走って水岸に近づいていく
本当だ! もう水際に着いてしまったぞ
まさに電光石火だ
すぐにごちらに来て水をあける
もう2回目だぞ!
なんと たらいはもう満杯!
あらゆる器がいっぱいだ
水であふれかえっているぞ!

ストップ! ストップ! /おれたちは見届けたぞ
おまえの仕事ぶりを/よくやった!
あっ そうだった! なんてこった!
あの呪文を思い出せない!

ああ 魔法を終わらせる呪文
それは箒を元の姿にもどすもの
ああ やつはめまぐるしく走り回っている!
もうおまえは元の箒にはもどらないのか!
どんどん新たな水を
こっちに素早く運んでくる
ああ あちこちから水が襲ってきて
溺れてしまう

いや これ以上
放ってはおけないぞ
お前を捕まえなければ
いたずらにもほどがある
ああ! でも心配だ
なんて顔つきなんだ! なんて目つきなんだ!

O du Ausgeburt der Hölle!
Soll das ganze Haus ersaufen?
Seh ich über jede Schwelle
Doch schon Wasserströme laufen.
Ein verruchter Besen,
Der nicht hören will!
Stock, der du gewesen,
Steh doch wieder still!

Willst's am Ende
Gar nicht lassen?
Will dich fassen,/Will dich halten
Und das alte Holz behende
Mit dem scharfen Beile spalten.

Seht, da kommt er schleppend wieder!
Wie ich mich nur auf dich werfe,
Gleich, o Kobold, liegst du nieder;
Krachend trifft die glatte Schärfe.
Wahrlich! brav getroffen!
Seht, er ist entzwei!
Und nun kann ich hoffen,
Und ich atme frei!

Wehe! wehe!
Beide Teile
Stehn in Eile
Schon als Knechte
Völlig fertig in die Höhe!
Helft mir, ach! ihr hohen Mächte!

Und sie laufen! Naß und nässer
Wird's im Saal und auf den Stufen.
Welch entsetzliches Gewässer!
Herr und Meister! hör mich rufen!
Ach, da kommt der Meister!
Herr, die Not ist groß!
Die ich rief, die Geister,
Werd ich nun nicht los.

"In die Ecke,
Besen! Besen!
Seid's gewesen.
Denn als Geister
Ruft euch nur, zu seinem Zwecke
Erst hervor der alte Meister."

おまえは悪魔だ!
この家全部を水に沈めるつもりなのか?
あらゆる入口から
水がすごい勢いで入ってくる
この邪悪な箒め
これが聴こえないのか!
おまえは元の棒にもどり
また静かに立っている

終わりにしたいのだが
そうはさせてくれないのか?
捕まえてやる/おとなしくさせてやる
そしてその古い木材の体を
鋭い斧で二つに裂いてやる

ほら また大急ぎでこっちにやって来た
おれはやつの上に飛び乗るだけさ
このいたずら小僧 すぐに倒れたな
この鋭い刃物をくらえ
やった うまく切れたぞ!
ほら 真っ二つだ!
これでやっと安心できる
一息ついたな

ああ! なんてこった!
二つに割れた箒が
すぐさま立ち上がって
下男になってしまった
それも 前よりでっかいやつに!
助けてくれ ああ! 全能の神よ!

二人は走り回る! どんどん水を持ってくる
広間も階段も水浸しだ
なんて恐ろしい水攻めなんだ!
お師匠様! おれの叫びを聞いてください!
あ お師匠様がやって来た!
お師匠様 とんでもない災害です!
霊を呼び出したところ
もはや手に負えなくなっていました

(魔法使いの呪文)
「控えおれ/箒よ! 箒よ!
元の姿に戻れ
霊として動き回るのは
目的があって この年老いた魔法使いに
呼び出された時だけじゃ」

